

発達障害が疑われる子どもへの対応アイデア 2

2. 環境面への対応

(1) 場所を変える

教室にすることが難しいと判断したときは、場所を変えます。暴れているときには、教師が手を引いて職員室へ連れて行き、職員室の職員に対応をお願いします。担任が動けないときには、インターホンやトランシーバーで応援を要請します。トランシーバーは、職員室、事務室に置いたり、教務、教頭が携帯します。興奮しておらず、自分で動けそうなときは、あらかじめ決めておいた場所に移動させます。

(2) 別室で放っておく

職員室に連れてこられたとき、すぐにあれこれ尋ねたり、問い詰めたりしません。まずは静かな場所に移動し、冷たい水を一杯与えて、そっとしておきます。しばらく経って落ち着いてきたら、話しかけるようにします。

(3) 教師机を後ろに置く

教師机に座りたがる子がいます。授業中に、教師用の椅子に座り、そこで勝手なことをするときには、教室机を後ろに配置します。教師机が後ろになることで、視界から消えて、他の子の妨げになりません。

(4) 机上に余分な物を置かせない

机上に余分なものを出して、散らかっている状態のとき、教科書やノートを一旦預かります。本人から見えるところに置いて、授業が終わったら持ってい

くように声をかけます。はさみやのりなど、関係ない物で遊んでいるときにも同様、一度預かります。道具箱ごと預かることもあります。

(5) 専用スペースを作る

荷物の整理が苦手な場合、ロッカーをもう一つ与えます。自分のものは、このロッカーに入れて、床には荷物を置かないように約束をします。

(6) 預かりダンボールを用意する

それでも荷物が整理できない場合、預かりダンボールを用意します。床に置いてあると、歩く人の迷惑になるから、このダンボールに入れておくね、と約束をして、席の近くの壁にダンボールを用意しておきます。ダンボール箱は、印刷用紙の箱をそのまま利用し、縦長になるよう配置します。箱に入っているも使わなければ、家庭に返却し、物の量を減らします。

(7) 黒板周りの掲示物

目に付きやすい黒板周辺にある掲示物は必要最小限にします。授業中に黒板の周りにたくさんの掲示物があったら、子どもたちの視線も気持ちも散漫になります。黒板の両サイドの壁面には、年間を通して必要な物だけを掲示して、シンプルにします。さらに、掲示物や掲示物を貼る台紙等は淡い色調を用いるとよいでしょう。学級目標を掲げるときには、教室背面上部に配置します。

(8) 予定黒板をカーテンで覆う

授業時間は、教室前面の掲示板をカーテンで隠します。授業中に必要のない予定黒板や各種掲示物を、カーテンで隠すことで視覚情報の刺激を減らします。